



# 令和6年度職員紹介

教職員の異動に伴い、新しい教職員が増えました。今年度はこのスタッフで児童の学びを支えて参ります。どうぞよろしくお願いいたします。

担当	名前	担当	名前	担当	名前
校長	山口 裕司	5・6年副担	飯塚 厚子	校務員	岡安 奈保美
教頭	久保田 由紀子	6年1組	関 拓也	学校司書	大槻 貴世
教務主任	秋葉 宗一	6年2組	井本 真弓	給食受入	田口 ひとみ
1年1組	齋藤 由香里	6年3組	水越 健太	給食受入	川並 愛美
1年2組	吉永 育子	3-ディレクター	高貴 優子	学習支援ポーター	山口 美香
1年3組	松本 琳華	わかたけ1	榎本 有希	支援員	加藤 恵美
2年1組	常谷 愛実	わかたけ2	植田 高子	支援員	須田 陽子
2年2組	関 政輝	わかたけ3	小林 直弥	支援員	檜沢 優子
3年1組	塚本 茉莉菜	わかたけ4	櫻井 克幸	支援員	中尾 香
3年2組	菅谷 瑞恵	ひまわり	先崎 有希子	支援員	國谷 千映子
3年3組	飯嶋 直美	あさがお	田村 友実	支援員	吉田 千恵子
4年1組	増形 つくし	おおぞら	鈴木 直美	支援員	貝塚 恵都子
4年2組	久保田 友里	保健室	中里 芳江	支援員	大嶽 嘉子
4年3組	杉山 真理	学校事務	藤岡 真里絵	支援員	小坂 理栄
5年1組	町井 香澄	学校事務	山口 あゆみ	A L T	マリ- アン パストル
5年2組	安島 大貴	指導教員	小松崎 久子	S C	鈴木 大輝
5年3組	根本 隆雅	非常勤講師	加藤 玲子		

※ 2年生は1組、その他の学年は2組の担任が学年主任となります。

## 主な学校行事について

来週末のPTA総会への参加をお待ちしております。総会資料に、各学年の行事を含めた予定をお渡しいたします。なお、ひまわり祭、運動会の日程については、現在調整中です。

- |                        |                       |
|------------------------|-----------------------|
| 4月27日(土) 授業参観・PTA総会    | 9月7日(土) PTA奉仕作業1/3/5年 |
| 4月30日(火) 振替休業日         | 10月11日(金) 前期終業式       |
| 5月16日(木) 市陸上記録会(6学年)   | 10月15日(火) 後期始業式       |
| 5月18日(土) PTA奉仕作業2/4/6年 | 1月9~10日 学力診断テスト       |
| 6月20日(木) PTA授業参観       | 2月21日(金) 学年末PTA       |
| 7月23~26日 個別面談期間        | 3月24日(月) 修了式          |

# P T A 総会に向けて

今週の土曜日（27日）には、久しぶりに参集でのP T A総会を開催する予定です。授業参観、学年懇談会と共にふるってご参加ください。先週、再度G o o g l eフォームへの入力案内をマチコミにて案内しました。本日〆切のため、回答をお願いいたします。

今回の総会は主に令和6年度の事業計画、予算案に関する内容となります。

先週末、総会に向けた本部役員会を実施しました。統合のため、今年度はP T Aの常任委員会は白紙の状態です。学年懇談の場にて、積極的に参加頂きますよう、お願い申し上げます。

## 学校と家庭学習との接続をめざして

昨年度、南小在籍の保護者の皆様に案内した内容ですが、今後も共通認識の下で実践を継続したいことから案内いたします。昨年度より、少しずつ見直しを図ってきた学校と家庭学習との接続に関して、南小の基本的な考え方をご案内いたします。

現行の学習指導要領が、Society5.0時代の到来に備え、児童の主体的な学びに焦点を当てていることから、今までのような教師主導の授業から、児童が課題を見つけて解決する授業へ…というように学校でも授業の見直しを進めているところです。そこで、学校が児童に推奨している家庭学習も、時代の変遷に伴い、見直しが求められています。基本的な方向性は、変化の激しい社会の変化に対応できるよう、社会に出てからも「常に学びつづけること」の必要性を踏まえ、小学校の段階から「学ぶ力としての学力」を育む考え方を大切にしたいものになります。「勉強」の言葉のような「勉めることを強いる」イメージでは無く、児童が「自ら学ぼうとする意志」を大切に育むイメージです。児童一人一人の特性に応じて、効果の高まる方法や量は違うはずです。

今までの学校では、授業で学んだ基礎的・基本的な内容の確実な定着に向けて、漢字や計算のドリルを中心に、「宿題」として「漢字をノートに〇回ずつ練習しましょう」「計算ドリルを3回繰り返しましょう」のように、どの児童にも一律に同じ質と量を求めてきました。しかしこれらは、学習習慣の獲得という側面では一定の効果はあるものの、外発的な動機付けの上、一人一人の力量形成の面では「過不足」「適不適」の側面があります。一律に質と量を求める課題は、次第に課題を終わらせることが目的化しがちです。課題はやったから終わりでは無く、身に付いたかどうか重要です。児童の発達段階や、学習の取組状況や達成状況等に応じて、臨機応変に対応すべき状況になってきています。どの児童にも一律同じ量は平等ですが、一人一人に公平ではありません。「自ら学ぼうとする意志」を尊重し、自分自身の学習の質や量が適切かどうかを判断し、足りなければ質の充実を図ったり、量を増やしたりする自己調整力を育む視点が重要です。今後、様々な面で、「学校からの与える宿題」から「児童が自ら必要とする内容と質と量」へと見直しを図っていく方向になります。

昨年度、南小では上記の観点から家庭学習の見直しを図ってまいりましたが、統合により各学校の様々な実態が混在しています。現在、学年や学級の児童の実態を把握している状況です。また、南小外から異動してきた教職員が、新しい南小の実態への理解を深めているところです。そのため、必要に応じてドリルを宿題として出すなどしながら対応しています。児童と教師の学校への順応が進み、かつ児童の家庭学習の実態理解が深まってきたら、少しずつ移行していく予定です。ご理解とご協力をお願いいたします。